

2026 年度 日本都市学会第 1 回理事会議報告

2026 年度第 1 回理事会は、2026 年 7 月 5 日（日）13 時 30 分から対面（於：名古屋都市センター）とオンラインで開催されました。出席者は、山崎健会長、磯部友彦、井澤知旦、児玉浩嗣、阿部亮吾（以上対面出席）、松村茂、増田聡、土居洋平、平井太郎、小山弘美、久隆浩、根田克彦、田中晃代、豊田哲也、北川博史、石川雄一、山下宗利、野村理恵、松本行真、西野淑美、川瀬正樹、車相龍（以上オンライン出席）の各理事、および大塚俊幸（オブザーバー、対面出席）です。議事の概要は次の通りです。

■議題 1 理事の異動について

各地域都市学会選出理事に異動はありませんでした。

■議題 2 学会賞担当事務局からの報告

学会賞担当事務局（中四国都市学会）より、各賞推薦状況として、奥井記念賞（日本都市学会賞）4 件、論文賞 7 件、特別賞（外国語著作賞）0 件、まちづくり賞・学術共同研究賞 0 件の報告がありました。各地域都市学会から推薦された奥井記念賞、論文賞の選考委員構成の報告があり了承されました。ついで、奥井記念賞選考委員長に井澤知旦理事が、論文賞選考委員長に松村茂理事が選任され、今後のスケジュールについて説明がありました。

■議題 3 年報担当事務局からの報告

年報事務局（関東都市学会）より、年報第 59 号の発行について報告がありました。また、本年度は、円滑な作業工程に鑑み原稿の体裁や組版作業も印刷業者に依頼したことから、昨今の印刷コスト高騰とあわせ第 58 号よりも 35 万円程度印刷費が高くなった旨、報告がありました。第 60 号の発行に向けては、投稿作業の省力化のために投稿者用ウェブフォームを作成する案等が検討されています。また、年報のバックナンバー（第 48 号～57 号）のデジタル化と J-STAGE への登録準備が完了しており、公開日については今後ニュースレター第 62 号で周知する旨、報告されました（公開日は 9 月上旬を予定）。なお、年報の在り方については今後も継続的に審議される予定です。

■議題 4 論文審査担当事務局からの報告

論文審査担当事務局（九州都市学会）より、2025 年度論文審査の結果報告があり、31 編の応募に対して採択が 22 編、採択率は 71.0%であることが述べられました（今後、採択率はニュースレターにも掲載されます）。あわせて 2026 年度の投稿〆切が 2026 年 11 月 30 日である旨、周知の願いがありました。なお、論文審査の在り方についても話し合いが行われました。論文審査委員構成が新しくなる旨、報告がありました。

■議題 5 第 73 回大会について

大会担当事務局より、2026 年度大会のテーマを「水辺空間と都市再生」とする開催案の報告があり、審議の結果、中四国都市学会の開催案が了承されました。

■議題 6 第 74 回大会について

近畿都市学会より、第 74 回大会を大阪市とその周辺で開催予定であるとの報告がなされました。

■議題 7 その他

本部事務局より、2025 年度の決算報告と 2026 年度の予算案について報告がありました。ただし、監査手続きが完了していないため、改めて 9 月の理事会にて最終報告がなされる予定となっています。なお、昨今の運営コスト上昇（とりわけ年報印刷費の高騰）や会員数減による収入減を受けて、学会の財政状況が悪化している点について議論がありました。その結果、会費を値上げするよりも前に、まずは支出の見直しを優先すべきとの意見が出され、年報の完全電子化（冊子媒体の廃止）、ニュースレターの電子化（紙媒体の廃止、メールでの配信等）、過去論文の J-stage 登録作業の一時停止（作業費の削減）などの案が討論されました。今後は 9 月理事会までに会員の意見を集約できるよう、ニュースレターにて内容を周知していく旨、合意されました。